

元気！ 活き生き
女性研究者・公立大学モデル

文部科学省 科学技術人材育成費「女性研究者支援モデル育成」事業



IRIS 活動報告集

アイリス

大阪府立大学 女性研究者支援センター

科学への夢を育て、未来へはばたく IRIS

—大阪府立大学 理系女子院生チーム—

女性研究者支援センター長 田間泰子(人間社会学研究科 教授)

大阪府立大学では、平成22年度から文部科学省の助成を受け、女性研究者支援に取り組んでいます。

その一環として若手女性研究者の育成が重要と考え、理系大学院生から希望者をつのり、

このたび「IRIS」を結成しました。「IRIS」のメンバーはみんな、科学が大好きで、

その楽しさや面白さを皆さんに伝えたいと思っています。

現在、科学技術における女性たちの活躍が期待されています。

世界では多くの女性研究者や女性技術者が活躍しています。

日本では、小学校や中学校には数学や理科が好きな女子が多いのですが、

大学に入るときには残念なことに少数になります。

ぜひ、「IRIS」と一緒に科学への夢を育て、未来へはばたきましょう。

目次

IRIS紹介 3



工学研究科 航空宇宙海洋系専攻
海洋システム工学分野 博士後期課程 2年

黒田 桂菜 4



工学研究科 物質・化学系専攻
応用化学分野 博士前期課程 2年

岩田 典己 5



工学研究科 電気・情報系専攻
知能情報工学分野 博士前期課程 2年

上野 未貴 6



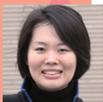
生命環境科学研究科 獣医学専攻
動物構造機能学分野 博士課程 1年

田中 美有 7



生命環境科学研究科 応用生命科学専攻
植物バイオサイエンス分野 博士後期課程 1年

西村 幸芳 8



生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻
緑地環境科学分野 博士前期課程 2年

谷 彩夏 9



理学系研究科 生物科学専攻
細胞組織工学分野 博士前期課程 2年

尾崎 由季 10

センター事業紹介 11

IRIS名簿

▶ 工学研究科

黒田 桂菜(くろだ・かな)	博士後期課程 2年
岩田 典己(いわた・のりこ)	博士前期課程 2年
上野 未貴(うえの・みぎ)	
高井 飛鳥(たかい・あすか)	
岩佐亜有美(いわさ・あゆみ)	博士前期課程 1年
小森 祐希(こもり・ゆき)	
松本 祐衣(まつもと・ゆい)	

▶ 生命環境科学研究科

田中 美有(たなか・みゆう)	博士課程 1年
西村 幸芳(にしむら・さちか)	博士後期課程 1年
谷 彩夏(たに・あやか)	博士前期課程 2年
池田 晴佳(いけだ・はるか)	博士前期課程 1年
中村 智(なかむら・さとり)	

▶ 理学系研究科

蒲池 沙織(かまち・さおり)	博士後期課程 2年
尾崎 由季(おさき・ゆき)	博士前期課程 2年
武 綾香(たけ・あやか)	博士前期課程 1年
東垣 由夏(ひがしがき・ゆか)	
又野 真実(またの・まみ)	

IRIS — I'm a Researcher In Science



「IRIS」は、科学の楽しさを伝えるために結成した大阪府立大学の理系女子大学院生チームです。

「IRIS」とは、「I'm a Researcher In Science」、「私は科学にたずさわる研究者です」の略語

です。また、大学本部のある堺市の市花の名前でもあります。この名称は、IRISのメンバーが決めました。IRISのロゴマークも、彼女たちが作りました。2011年度は工学研究科7名、生命環境科学研究科5名、理学系研究科5名、合計17名で活動しました。普段、彼女たちは、機械や獣医学から宇宙や海洋など幅広い分野を研究しています。

子どもサイエンスキャンパス

地域の子どもの科学を体験し、面白さを伝える企画を行っています。



● 2011年8月6日
クレオ大阪夏祭り

「色んな色でろうそくを作ろう!」/

「ペットボトルで作る! 簡単、浮沈子☆」

主催: 大阪市

会場: 大阪市立男女共同参画センター(クレオ大阪) 東部館

参加者: 16組32名

IRIS: 東垣由夏

● 2011年8月17日

「手作り顕微鏡と府大の生物観察」

共催: 中百舌鳥子ども会

会場: 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

参加者: 52名

IRIS: 池田晴佳、尾崎由季、小森祐希、武綾香、中村智、松本祐衣

● 2011年10月29日

子ども元気広場

「ペットボトルロケット作成と飛距離測定」

主催: 高石市立高石小学校

参加者: 30名

IRIS: 岩田典己、小森祐希、松本祐衣、又野真実

● 2012年2月5日

堺で科学 サカイエンス2012

「コンピュータとお話ししよう! ~ Pictgent ~」

主催: 堺市教育委員会

会場: 堺市教育文化センター(ソフィア・堺)

参加者: 689名

IRIS: 上野未貴

● 2012年3月17日

和泉市男女共同参画社会づくり講座「科学のこころを育てよう」

「おもしろ実験やってみよう~ DNAを取り出そう! ~」

主催: 和泉市男女共同参画センター

IRIS: 黒田桂菜、武綾香

● 2012年3月27日

親子科学実験教室

「霧箱を作って放射線のみてみよう!」

主催: 寝屋川市立男女共同参画推進センター

IRIS: 岩佐亜有美、谷彩夏

オープンキャンパス「めざせ! 理系女子コーナー」

オープンキャンパスで、理系への進学に興味を持つ女子高生とグループトークを行って、疑問・悩み・相談にお答えしました。

● 2011年8月6日、7日

参加者: 153名

IRIS: 池田晴佳、岩佐亜有美、岩田典己、尾崎由季、蒲池沙織、黒田桂菜、小森祐希、高井飛鳥、田中美有、中村智、西村幸芳、又野真実、松本祐衣

研究発表

ポスター発表等の研究発表をすることで、高校生やロールモデルとの交流を行いました。



● 2011年10月29日

「集まれ! 理系女子 第3回女子生徒による科学研究発表交流会」

主催: 学校法人ノートルダム清心学園清心女子高等学校

会場: 福山大学社会連携研究推進センター(宮地茂記念館)

IRIS: 田中美有、谷彩夏

● 2012年1月24日

ロールモデル・セミナーにおけるポスター発表

会場: 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス 学術交流会館

IRIS: 上野未貴、黒田桂菜、谷彩夏、東垣由夏

その他

● 2011年8月10日

ノートルダム清心学園清心女子高等学校との交流会

「未来新聞記者になろう! —先輩の研究にふれて未来を想像してみよう」

「動物の病気について(観察)、

植物ウイルスについて(実験: アスバラガスの茎頂培養)」

会場: 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

参加者: 40名

IRIS: 上野未貴、黒田桂菜、田中美有、西村幸芳

● 2012年1月26日

さかい男女共同参画週間

「アサーショントレーニング入門~自己表現のコツ~」

協賛: 堺市市民人権局 男女共同参画推進課

会場: 堺市立勤労者総合福祉センター(サンスクエア堺)

参加者: 19名

IRIS: 小森祐希

● 2012年3月2日

Woman Pioneers—女性先駆者たち DVD鑑賞&読書会

「今昔・理系女子」

主催: 大阪府

企画運営: (財)大阪府男女共同参画推進財団

会場: 大阪府男女共同参画・青少年センター(ドーンセンター)

IRIS: 黒田桂菜



海陸一体型の循環型社会の構築をテーマに
海洋環境を改善すると共に、
陸において海の資源を活用できる
社会システムの構築を目指しています。

■ 黒田 桂菜 KURODA KANA

工学研究科 航空宇宙海洋系専攻 海洋システム工学分野
博士後期課程2年

1999年3月 大阪府立生野高校 普通科卒業
2003年3月 大阪府立大学 工学部 海洋システム工学科卒業
2004年5月～2005年2月 ハワイ大学自然エネルギー研究所 留学
2006年3月 大阪府立大学 大学院工学研究科 機械系専攻
海洋システム工学分野 博士前期課程修了
2006年4月～2010年2月 株式会社 栗本鐵工所 勤務

学生時代について

小中学生の頃は、海外の本や映画が大好きで、海外に住む叔母の影響もあり、海外で働くことを夢見ていました。そのため、理系科目よりも英語が得意で、将来は外国語大学に行き、映画の翻訳に携わりたいと思っていました。高校生になっても英語は好きでしたが、歴史科目のように暗記しなくても、解くプロセスを身につけていれば何とかなる数学や物理の方が自分の性格に合っているように思い、理系に進みました。大学受験は、天体や空に興味があったので宇宙関連の学科を受けましたが、受かったのは第二希望の海洋システム工学科でした。学部生時代は、勉強は最小限でバスケットボールや旅行、アルバイトに熱中する、ごく普通の大学生だったと思います。ただ、クラブを引退し将来を考える時期になり、自分がこれから何をしたいのかわからず、悩みました。そんな時、学科の先生から海洋調査船「みらい」に乗って海のことを調べる研究を聞き、「みらい」に乗りたい一心で、その研究室に入りました。その後、研究室の先生に背中を押してもらい、長年の夢だった留学、そして「みらい」への乗船も叶い、自分の視野を大きく広げることができた研究室生活でした。博士前期課程で卒業後4年間働きましたが、やはり研究に関わりたいとの思いから、博士後期課程に戻ってきました。現在は、博士研究だけでなく、学内の異分野交流の活動などにも、積極的に参加しています。

後輩へのメッセージ

第一希望から始まった大学生活ではありませんが、多くの出会いとチャンスに恵まれた大学生活を送ってこれたと思います。大切なことは、自分で限界を決めないこと、そして自分の心の声に素直に従い、行動する勇気を持つことだと思います。

将来の夢・目標

博士研究のテーマである、海陸一体型物質循環システムの構築は、海を利用し海と共生していく人間活動のあり方を追求するという、とても壮大なテーマです。数年間で、そして個人で実現できるものではなく、市民、自治体、企業そして研究者が一体となって、取り組む必要があります。長い道のりですが、研究者の立場から、そして将来は各々の立場や研究分野を繋ぐコーディネーターとして関わり、私たちの子どもや孫の世代が、より良い環境で生きていくことに繋がる研究や活動を行っていきたくと考えています。そのために、博士の学位を取得し、研究者として独り立ちできるスタートラインにまず立つことが、今の切実な目標です。

IRISの感想

特に印象深いのは、自ら企画して女子高校生向けに自分たちの研究をテーマにしたワークショップを行ったことです。高校生と触れ合うことで改めて研究の楽しさを実感しました。また、同じ理系で頑張っている大学院生の方々との出会いはとても刺激になりましたし、自分の生き方が後輩たちのとってのロールモデルとなることを願っています。

学生時代について

小学校の頃から不思議なことが好きで、よく外に出て自然の中にある面白いことを探して、遊んでいました。中学・高校になると、授業で実験をする機会が増え、生活の中でなぜ?と感じることの理由がわかったり、見たこともない現象を目の当たりにしたりすることで、化学が面白いと気づくようになりました。大学の進路を選ぶ時、心理学にも興味を持っていた私は、文系か理系かでも迷いましたが、「ここで化学をやらないなら一生やることはないだろう」と考え、化学系に進みました。実際に入ってみると、難しい勉強もたくさんしなければなりませんでした。やはり実験は、面白いのです。分子を設計して合成していくと、ある段階から色を持つ物質になり、また次の段階ではさらに異なる色に変わり、最終的には、自分の作った分子が光ったり、電気を流したりするのです。目で見えている現象の中で、ナノスケールで分子達が動いていることを考えると、化学物質を確かに自分の手で扱っているものの、想像の世界の物質を扱っているかのような感覚になります。そんな不思議な化学において、些細な事でも感動しあえる研究室の仲間たちと、励まし合いながら研究生活を送ってきました。

将来の夢・目標

私は、この春より一般企業で研究職に就きます。夢は「世の中の人たちに役立ち、驚きと感動を与える、革新的な製品を創り出すこと」です。ありがちで、達成しやすいことのように思われるかもしれませんが、しかし、大学院での研究生生活を経て、これは決して簡単なことではないと、感じるようになりました。私たちが生活している世の中では、次々と新しい製品が生まれてきます。その一つの製品が生まれる背景には、世界中の、数え切れないほどの化学者が何十年もかけて研究を行なった成果が、詰まっているということが分かりました。いつかきっと、私もそのような化学者の一人として、周囲の人たちと力を合わせて、多くの人に喜んでもらえる、革新的な製品を、世の中に送り出したいです。

また、幸せな家庭を築くことも大切な夢です。子どもは3人以上で賑やかに(笑)! 明るい家族を支え、支えられて、仕事も家庭も両立できるような、力強く優しいお母さんになりたいです。

IRISの感想

理系には、女性が少ないのが現状ですので、仲間である理系女子の方々と出会え、仲良くなれたことが嬉しかったです。活動では、小学生から高校生のみなさんと触れ合い、たくさんの元気をもらえてとても楽しかったです。

次世代のエネルギー源として 期待されている有機太陽電池の ドナー性材料の研究開発を行っています。

■ 岩田 典己 IWATA NORIKO

工学研究科 物質・化学系専攻 応用化学分野
博士前期課程2年

2006年3月 大阪教育大学附属高等学校平野校舎卒業
2010年3月 大阪府立大学 工学部 応用化学分野卒業

後輩へのメッセージ

理系は大変だ、というイメージがあるかと思いますが、便利で過ごしやすい世の中を支えるために、欠かせない存在だと思います。大変なだけに仲間同士の絆は強いので、励まし合いながら乗り越えていきますよ。



共通の絵を題材にユーザとコンピュータ間で対話できるシステムの実現を目指しています。教育・医療などに応用できる可能性があります。

■ 上野 未貴 UENO MIKI

工学研究科 電気・情報系専攻 知能情報工学分野
博士前期課程2年

2006年3月 京都市立西京高等学校
エンタープライジング科自然科学系コース卒業
2010年3月 大阪府立大学 工学部 知能情報工学科卒業

学生時代について

「自ら物を創りたい!」という強い思いから、工学部に進みました。小さい頃は、お菓子の箱など身近な物で工作するのが好きでした。その後、小1の頃、初めて触れたコンピュータの何でもできる楽しさに、魅了されていきました。実は科目としては、ずっと国語が一番好きでした。高校の理系科目に対しては、興味はあるけれど、やっていけるのか不安を感じ続けていたのですが、自ら物を創りたいという思いを貫いて、コンピュータで物を創り出せる今の学科に進みました。

情報系は、プログラミング技術とパソコンさえあれば、頭の中にあるアイデアを世界最先端のレベルで具現化できるという、他の分野では考えられない魅力があり、良い選択をしたと思っています。

現在の研究テーマの基盤はもちろん工学ですが、言語学、心理学など他分野とも関連が深く、私の文系学問に対する知識欲も十分に満たしてくれています。

研究室に配属されてからは、研究室内で地道にプログラムをして論文を書き、国内・国際学会などで成果を発表して、と静と動を行き来する、慌ただしい毎日です。学内外の友達はもちろん、今では、研究を通じて様々な場所で出会う人が増えていくことが、私の研究生活のエネルギーの源になっています。

後輩へのメッセージ

あなたであること、「これ面白いな」というワクワクを忘れないで下さい。捉われず、自分自身で会って見て考えて、恐れず進んでみて下さい。多くを持たなくとも、まっすぐな想いは、あらゆるものを動かす力があります。

将来の夢・目標

研究テーマを通して、人の心を温かくする創り手の一人になることです。また、研究者と技術者とユーザーを繋ぐ人になりたいと思っています。そのため、博士後期課程に進学し、研究を進めながら、アカデミックな場所も社会も実際に自分の目でたくさん見たいと思っています。情報の氾濫により悪いイメージを持たれることもあります。私は、コンピュータは誰もが夢を形にできる、素敵な道具だと信じています。そして、その向こうには、きちんと情と心を持った人がいます。たった一台でも、アイデアを形にすることができます。その魅力を自分のソフトウェアを通して、子どもたちに伝えられたらと願っています。また、私自身が子ども時代から、よく悩んでぶつかって転んで、けれども、たくさんの温かな人達との出会いによって、今歩むことができているので、昔の私のような誰かに、焦らなくても大丈夫だよ、強く想って歩いていけば、きっと道は開けるよ、と勇気付けられる人になることが目標です。

IRIS の感想

こんなに身近に理系の各方面で頑張っている女の子がいるんだ!という刺激と勇気をもらいました。また、お互いの専門分野や得意を活かして企画・実施でき、研究生活に元氣と華やきを添えてくれる貴重な場です。

学生時代について

小さい頃から動物が大好きだったのですが、盲導犬の訓練士に憧れて動物に関わる仕事に関心を持ち、やがて、動物の命を救えるようになりたいと思うようになりました。中学生の時、絶対に臨床獣医師になると決心したので、高校の文理選択では迷わず理系を選択し、大学受験も獣医学科だけに絞りました。

大学入学後は、授業・実習と部活の合間の時間を見つけては、動物保護施設や動物病院などの見学に行き、“獣医師になれたら何がしたいか”を考えながら過ごしていました。研究室配属では、最も魅力を感じた分野であった“獣医病理学”を学べる研究室を選択しました。“なぜ、どんなメカニズムで病気になるのか”を考えながら研究を行ううちに、基礎研究の大切さを実感し、その面白さにはまっけていきました。また、病理学をさらに深く学び、それを活かして獣医師として貢献したいとも思い始め、悩んだ末に、大学院進学を決めました。現在はとても恵まれた環境の中、学生同士や先生も交えて、症例について意見交換をしたり、研究の合間には、研究室のメンバーでお菓子を囲んでわいわいしたりと、onとoffの切り替えをしっかりとしながら、楽しく充実した日々を過ごしています。

将来の夢・目標

獣医師になる、という長年の夢は、昨年叶えることができました。もともとは、人間に捨てられてしまう犬や猫が沢山いるという現実や、動物福祉・愛護について小学生の時に知って、大好きな動物の命を救うための力になりたいという思いから、臨床獣医師を目指していました。この思いは、今の自分の原点なので、獣医師として働いていく上で、ずっと忘れずにいたいです。

小学生の頃からずっと思い描いていた、“治療をして命を救う”というものとは違った手段ではありますが、今学んでいる病理学を基盤にして、多くの人や動物の病気の診断や治療に結びつくような基礎研究を行い、生命科学分野に貢献できるような研究者を目指したいと思っています。

また、保育士である母親の影響もあり、獣医師という立場から子どもの教育にも関わりたいともずっと思っていたので、いつかはその分野で、母親と一緒に仕事をするのも1つの夢です。

IRISの感想

活動に参加して、生徒たちと交流をする度に、わくわくした気持ちになりました。また、自分と同じような気持ちを持った仲間ができて心強かったですし、他分野の院生とコミュニケーションをとれるようになったことは、本当に良い刺激になりました。

新規ミエリン異常ミュータントの 病理発生の解析を行っています。

■ 田中 美有 TANAKA MIYUU

生命環境科学研究科 獣医学専攻 動物構造機能学分野
博士課程1年

2004年3月 私立滝高等学校 普通科卒業

2011年3月 大阪府立大学 生命環境科学部 獣医学科卒業

後輩へのメッセージ

私の場合、病理学に興味を持ち、何気なく今の研究テーマを選んで、尊敬する先生に出会って…など、様々なことがきっかけとなって、本当にやりたいことを見つかることができました。将来の自分を決めるきっかけは、色々なところで転がっているんだと思います。



植物ウイルスが感染した植物体内で、
どのように植物体全身に感染を
広げていくのかを調べています。

■ 西村 幸芳 NISHIMURA SACHIKA

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻 植物バイオサイエンス分野
博士後期課程1年

- 2005年3月 私立四天王寺高等学校卒業
2009年3月 大阪府立大学 生命環境科学部
植物バイオサイエンス学科卒業
2011年3月 大阪府立大学 大学院生命環境科学科 応用生命科学専攻
植物バイオサイエンス分野 博士前期課程修了

学生時代について

私は今、大学院の博士後期課程一年生で、植物が罹る病気について研究しています(植物病理学といえます)。私が所属している植物バイオサイエンス分野では、植物についての色々な研究が行われています。学生は三年生後期になると自ら行きたい研究室を選んで、そこで自分が希望する、あるいは与えられたテーマについて実験をし、先生と話し合いながら研究を進めます。それまでの間は、植物のしくみや利用法など、植物に関する知識を幅広く学びます。私が植物関係へ進んだ経緯は、小学校に入る頃に遡ります。私の両親は、小さいときから海や山へよく連れて行ってくれ、そのおかげで、私は植物や生き物、自然に興味を持つようになりました。小、中学校の授業でも、一番好きな科目は理科。実験したり観察したり、自分で考えながら身の回りのなぜ?を明らかにすることの楽しさを知りました。高校でも生物だけは、よく勉強しました。実は、数学や化学はあまり得意ではなかったのですが、大学で好きなことをするためには理系に行くしかないと思い、不得意ながらも頑張りました。そして現在、私は植物病理学の専門家になるべく、日々研究に励んでいます。もちろん、今のうちに好きなことに没頭できるようになるまでに、苦しいときは何度かありましたが、どうしてもやりたいことがあったおかげで、めげずにここまで来ることができました。

先輩へのメッセージ

理系へ進学する女子高校生は徐々に増えつつありますが、博士課程へ進みその道のスペシャリストになる女性は、まだまだ多くはありません。かつて「博士課程なんかに進むと変人になる」と言った知人がいましたが、そんなことはありません(笑)。仲間が増えるのを楽しみに待っています。

将来の夢・目標

大学に入学した頃、先生方が、ご自分の研究について楽しそうにお話されている姿を見て、私は自分もこんな風になりたい!と思いました。大学には植物に関することを勉強したいと思い、入学したものの、具体的に将来どうしたいという事は考えていませんでしたが、その瞬間、それまでの人生の中で初めて自分のなりたいたいものを見つけました。その為には、博士号を取らなければならないと思い、博士後期課程への進学を決めました。将来の目標は大学で研究をしながら学生さんを育てること。これは後期課程への進学を決めた頃から変わっていません。そしてもう一つの目標は、植物病理学という学問領域に進んだきっかけとも関係があります。私は現在、植物に感染するウイルスについて研究しているのですが、現時点では、植物は一度ウイルスに感染すると治らないとされています。これを学部時代の授業で聞いた私は、それなら自分が治してやろう、と大それたことを考え、植物病理学を選んだのです。ゆえにもう一つの目標は、ウイルス病を治療する方法の発見に貢献することです。

IRISの感想

子どもたちや高校生、一般の人向けに実験教室を開催したときに、来てくださった方たちが驚いたり、楽しんでいる姿を見るのが嬉しいです。また分野の違う理系の女性に出会える場でもあり、そういう人たちと交流することができるのは、IRISならではの楽しみです。

学生時代について

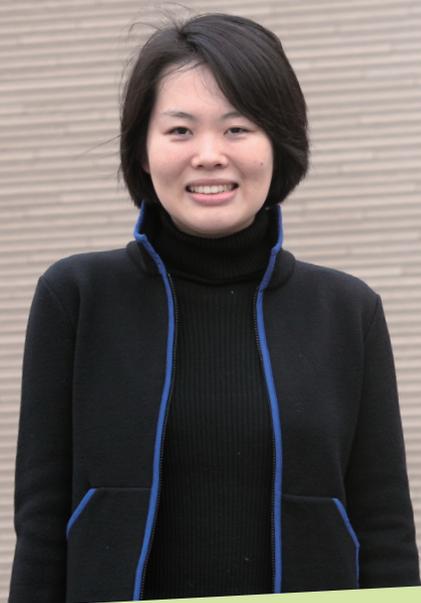
私が育った尼崎は、大気汚染など公害関連のニュースで取り上げられることが多く、小学生の頃から環境問題に関心がありました。そこで、大学では環境問題を解決するための知識を得たいと思ったのですが、果たして環境を学ぶには理系がいいのか文系がいいのか、わかりませんでした。地理が得意で、数学が大の苦手の私としては、文系に進む方が受験はすんなり行くだらうと思いましたが、苦手意識を持ったまま選択してしまうと、理系的な考え方が永遠に死角になるだらうと思い、あえて理系の道を選択しました。大学に入ってしまったら、苦手な数学からは解放されまし、文系学部の授業もたくさん受講し、自由に学ぶ事ができました。研究室に配属されると、先輩後輩はもちろん、学会を通じて他大学の人々など、いろんな人と交流する機会が増えました。また、理系というと実験が大変で不健康そうな印象を持たれますが、私の研究テーマは文献調査が主だったので、それほどでもありませんでした。

将来の夢・目標

漠然としています。理系と文系の中のちょうど真ん中に行く人になりたいと思います。現代の環境問題の解決のためには、現状を把握することももちろん重要ですが、過去から環境がどう変化してきたかを総合的に知る必要があると思います。そのために理系だけではなく、文系的な手法や考え方も取り入れて、取り組んでいきたいと考えています。

IRISの感想

理系女子が増えているようですが、私が研究生生活で接触したのは、ほぼ男の人でした。もしかして、私も男かもしれないと錯覚し始め、これではいけないと思いIRISに参加しました。いろんな分野で頑張っている女性研究者と接することができ、良い刺激になりました。



史料文献中の紅葉時期の記録に基づいた、京都の10月平均気温の推定をしています。

■ 谷 彩夏 TANI AYAKA

生命環境科学研究科 緑地環境科学専攻 緑地環境科学分野
博士前期課程2年

2005年3月 私立神戸海星女子学院高等学校卒業

2010年3月 大阪府立大学 生命環境科学部 緑地環境科学科卒業

後輩へのメッセージ

時間や能力が足りないと感じて諦めることがあるかもしれませんが、やりたいと思った時がやり時だと思います。貪欲にいきましょう。



羊毛やヒトの毛髪などの主成分であるケラチンを利用した足場材料の可能性を追求することで、廃棄資源を利用したバイオマテリアルの開発を行っています。

■ 尾崎 由季 OZAKI YUKI

理学系研究科 生物科学専攻 細胞組織工学分野
博士前期課程2年

2004年3月 奈良県立奈良高校卒業

2010年3月 大阪府立大学 理学部 生物科学科卒業

学生時代について

小さい頃から、生き物が大好きな子どもでした。休みのたびに、各地の動物園や水族館に連れていってもらったことを覚えています。ですから、進路を決める際に、生物に関する研究をしてみたいと考えたのは、本当にごく自然な流れだったように思います。特に私の生物に対する興味をより深め、研究の面白さを知るきっかけとなったのが、高校のときに、通常の生物の授業に加えて実験・観察を中心とした選択授業を受講したことです。受講したのは学年で数人だけの、とてもアットホームな授業だったのですが、イカの体表に棲む細菌の培養や、校内の植物標本づくりなど、とにかく次の実験は何をするんだろう？と毎週ワクワクしていたのを覚えています。当時の記憶が私の研究の原点です。

私の所属する研究室では、再生医学や組織工学に関連した動物細胞の培養技術と、これらに付随する生体材料、バイオマテリアルの研究を行っています。細胞は目に見えないくらい小さなものですが、実は周りの環境に合わせて様々な応答を起こしています。細胞と細胞がさらされる環境(=生体材料、バイオマテリアル)の側面から、社会に必要なとされる新しい技術や方法を開発するための研究を行っています。

後輩へのメッセージ

「好きなこと」はありますか？ない人はまず、好きなことを探すところから。ある人は、そこに向かって突き進んでいけば良いと思います。好きこそもの上手なれ。きっとその先に、「やりたいこと」が待っています。

将来の夢・目標

将来に限った話ではないですが、常に好奇心を持って、全方位にアンテナをはり続けられる研究者になりたいです。そのためには、自分の研究分野に関連した分野だけに特化するのではなく、時には分野の垣根すら越えた柔軟な発想力をもつことが必要だと考えています。そこで重要となってくるのが、コミュニケーション能力です。人の研究を知り、また自分の研究を人に知ってもらおう。この能力をより磨くのが、当面の目標です。特にその中でも、プレゼンテーションは限られた時間で、いかに自分の言いたいことを分かりやすく伝えられるかを試されます。学会やシンポジウムだけでなく、様々な場でたくさんの人々の発表を聞き、また聞いてもらうことで能力を高めていければいいなと思っています。

私は来年度から博士後期課程に進学するのですが、研究者としては、やっとな土俵の隅っこに立てるような感じがしています。まだまだこれからですね。

IRISの感想

最初、活動内容を聞きこれだ！と思いました。近年の子どもたちの理科離れは、彼らだけの責任ではないと私は考えています。IRISの活動が、一人でも多くの子どもたちに科学の面白さを伝えることが出来ればと思っています。

元気！活き生き女性研究者・公立大学モデル

大阪府立大学では、平成 22 年度～ 24 年度の 3 年間、理系の女性研究者の増加を目指して、女性研究者・院生・学生のための支援プログラムを実施しています。

プログラムの目的

理系女性研究者の増加

- 事業終了までの3年間で、理系女性研究者数の平成21年度の30%アップを目指す。
- 理系博士課程を修了する院生の女性比率を25%まで引き上げる。

地域貢献

- ロールモデル・バンクの構築と活用により地域に貢献する。

環境整備

- 相談窓口・メンター制度・保育室を開設する。
- 出産・育児等の問題に直面した理系女性研究者のために研究支援員を配置する。

「多様な人材活用
推進の基本方針」
策定 (平成 21 年度)

女性研究者 支援の事業

波及効果

- 全学的な改革による、理系女性研究者の研究の質の向上と、それを支える本学構成員の意識改革
- 大阪府の施策の活用を通して、地域に貢献することによる女性研究者のロールモデルの普及

多様な人材活用推進
平成 25 年度以降も、
継続的に推進していきます

大学内のみならず、地域において女性研究者の活躍を目指します

全学的システム改革

1 支援のための環境整備

推進体制を整えるとともに、女性研究者への直接支援などを行っています。

研究支援員の配置・在宅勤務支援

妊娠・出産・育児で時間の取れない女性研究者に対して、研究を補助する支援員を、センターから派遣します。また、在宅勤務の支援として、webカメラ付きパソコンの貸与を行っています。

相談窓口

- 支援センター相談
研究者や研究者になろうとする女性で、研究を続けていく上で困ったこと、悩んでいることの相談に対応しています。
- 女性の健康相談
心や体の悩みについて、助産師が個別相談やミニ・セミナーを行っています。
- メンター制度 (予定)
研究を続けていく上での色々な悩みを、先輩の研究者に相談できる仕組み作りをしています。

保育施設の設置

平成23年度に、学内保育施設「つばさ保育園」を開設しました。

女性研究者のネットワーク構築

女性研究者同士がネットワークを構築できる環境を作ります。

- 女性研究者懇話会
- 女性研究者SNS

2 全学的意識改革

女性研究者が研究を続けていくことへの理解を進めます。

公開セミナーやシンポジウムの実施

学部・研究科のオリエンテーションや授業等での事業概要説明
子育て応援ピンバッジ・シールや「会議は17時まで」
キャンペーンの実施

3 キャリアパスの構築と裾野拡大

女性が研究者として活躍するキャリアパスを構築すると共に、理系を志す女性の数を増やします。

ロールモデル・セミナーや、サイエンス・カフェの実施

ロールモデルとなる、社会で活躍する理系の女性研究者から話を伺うことで、多様なキャリアパスを考える機会を提供します。

「世界に翔け! 理系女子大学院生」表彰制度

理系女子大学院生を対象に、国際学会等で発表するための援助を行う表彰制度を行っています。

ロールモデル・バンクの構築

社会で活躍する理系の女性に登録していただき、後輩たちに、キャリアパスの構築やワークライフバランス実現のための情報を提供します。

理系女子大学院生チーム「IRIS (アイリス)」による 小・中・高校生を対象とした裾野拡大事業の実施

4 サポート基盤の整備

全学的な連携・協働体制

事業を進めていくため、学内の各部署との連携・協働体制を強化します。

大阪府・堺市など、地域との連携

公立大学であることを活かして、大阪府や堺市をはじめとして地域との連携を深めて、地域貢献を図っていきます。



**公立大学法人 大阪府立大学
女性研究者支援センター**

〒599-8531

大阪府堺市中区学園町 1-1 (中百舌鳥キャンパス B16 棟)

TEL・FAX. (072) 254-9856

E-mail. w-support@ao.osakafu-u.ac.jp

URL. <http://www.opu-genki.jp/>

発行：平成24年3月